

7月学院福音化、第4課

がくいんふくいんか だい か ふくいん も もの せいれい み
学院福音化、第4課「福音を持つ者の聖霊の実」です。

ガラテヤ5:22—23節^{せつ}を^よ読みます。

22 しかし、御^み霊^{たま}の実^みは、愛^{あい}、喜^{よろこ}び、平^{へい}安^{あん}、寛^{かん}容^{よう}、親^{しん}切^{せつ}、善^{ぜん}意^い、誠^{せい}実^{じつ}、

23 柔^{にゅう}和^わ、自^じ制^{せい}です。このよう^{はん}な^{たい}もの^りに^り反^り対^りす^りる^り律^り法^りは^りあ^りり^りま^りせ^りん。

きょう ほんぶん し
今日の本文はよく知っているみことばです。しかし、この本文^{ほん}だけ^{ぶん}を^き切^きり^はな^はな^なして^み見^みると、福音^{ふくいん}を持つ^も者が^{もの}生活^{せい}を^{かつ}通^{とお}して^{むす}結^{むす}ばなければなら^みない^{なら}実^みを^{なら}並^かべて^か書^かいて^あると^{かん}勘^ち違^がい^する^しか^も知^しれ^ませ^んが、パウロ^りが^りこ^りれ^まで^り律^り法^り主^{しゅ}義^ぎに^おち^い陥^いつた^きガラ^きテ^いヤ^せ教^と会^いの^{せい}聖^と徒^とた^ちに^うつ^たな^いよう^{かん}が^わた^しに^みそ^のよ^うな^み実^{むす}を^の結^{むす}ぶ^のこ^とを^の望^ぞむ^こと^ば言^{こと}葉^ばで^はな^いこ^とが^わ分^わか^りま^す。

せつ はじ
22節の始^はまり^じに「しかし」という^{せつ}接^{せつ}続^{ぞく}詞^しを^{つか}使^{つか}って、19節の「肉^{にく}の行^{おこな}い」と「聖^{せい}霊^{れい}の^{せい}実^い」を^{たい}対^{たい}比^ひして^{せつ}説^{めい}明^{めい}して^いま^す。つまり、肉^{にく}に^{ぞく}属^{ぞく}する^{もの}者^{もの}と^{たい}は^{たい}対^{たい}照^{しょう}的^{てき}に、聖^{せい}霊^{れい}の^{せい}人^{ひと}は^どん^な者^{もの}な^のか^を説^{せつ}明^{めい}して^いま^す。聖^{せい}書^{しょ}は、神^か様^{さま}の^{れい}霊^{れい}が^{とも}に^おら^れない^{もの}者^{もの}たち^を「肉^{にく}」と^い言^いいます（創^{そう}6:3 ^{しゅ}そ^こで、^い主^{しゅ}は^{れい}言^いわ^れた。「^わた^しの^{れい}霊^{れい}は、^{ひと}人^{ひと}の^{えい}う^ちに^{えい}永^{えい}久^{きゅう}にと^とど^まる^こと^はな^い。人^{ひと}は^{にく}肉^{にく}に^{ひと}す^ぎな^いか^らだ。だ^から、人^{ひと}の^{よわ}い^ひ百^{ひゃく}二^に十^{じゅう}年^{ねん}に^しよ^う。）」

み ほんやく こ
「実^み」と^{ほん}翻^{やく}訳^{やく}した^こギリ^{めい}シ^しャ^ま語^え「カル^かフ^αオ^ρス^π」という^{めい}名^し詞^ごの^ま前^えに「ホ(ó)」と^{てい}定^{かん}冠^し詞^つを^つ付^つけて^いま^す。つまり、単^{たん}数^{すう}名^{めい}詞^しと^みして「その^い実^み」と^い言^いわ^なけ^れば^なり^ませ^ん。そして、続^{つづ}いて^の「聖^{せい}霊^{れい}（ト^{しゅ}ウ^くプ^かニ^くュー^かマ^くト^くス）」を^{しゅ}主^か格^かと^{して}書^かいて^いま^す。こ^れら^の文^{ぶん}章^{しょう}を^{ただ}正^{ほん}しく^{やく}翻^{やく}訳^{やく}す^{れば}「聖^{せい}霊^{れい}が^{むす}結^{むす}ば^{れる}その^み実^み」と^なり^ます。し^たが^って、23^{せつ}節^{せつ}ま^でに^{なら}並^かべて^か書^かいて^ある^{せい}性^{しつ}質^{しつ}は、9^みつ^のそ^のれ^ぞれ^の実^みで^はな^く、聖^{せい}霊^{れい}が^{むす}結^{むす}んだ^{ひと}一^みつ^の実^みで^ある^こと^です。そ^れで^は、聖^{せい}霊^{れい}が^{むす}結^{むす}ぶ^{その}実^みが^どん^なな^{もの}な^のか^をも^う少^{すこ}し^し調^{しら}べ^てみ^まし^よう。

だいいち
第一^だコ^いリ^んト^で復^ふ活^{かつ}した^{イエ}ス^キリ^スト^を「眠^ねつた^{もの}者^はた^ちの^はつ^ほ穂^きろ^く」と^き記^{ろく}録^くして^いま^す。

1 コリ15:20, 23

20 しかし、^{いま}今やキリストは、^{ねむ}眠った者の^{もの}初穂^{はつほ}として^{ししや}死者^{なか}の中からよみがえられました。

23 しかし、それぞれに^{じゆんじよ}順序^{はつほ}があります。まず初穂^{つぎ}であるキリスト、次にその^{らいりん}来臨^{とき}のときにキリストに^{ぞく}属^{ひと}している人^{たち}です。

そしてローマ人への^{びと}手紙^{てがみ}では、^{かみ}神の^{みたま}御霊^{みちび}に^{ひと}導^{かみ}かれる人^こは神の子^{かみ}であり、そのような神の子^こを指^さして「^{みたま}御霊^{はつほ}の^{わたし}初穂^いを^{わたし}いただいている^{わたし}私^{たち}」^いと言^いいます。

ローマ8:14 ^{かみ}神の^{みたま}御霊^{みちび}に^{ひと}導^{かみ}かれる人^こはみな、神の子^こどもです。

ローマ8:23 それだけでなく、^{みたま}御霊^{はつほ}の^{わたし}初穂^{わたし}を^{じしん}いただいている^こ私^{たち}自身^も、子^こにして^{いた}ただ^くこと、すなわち、^{わたし}私^{たち}の^{あがな}からだ^をが^ま贖^{のぞ}われる^{こころ}ことを^{なか}待ち望^みながら、^{なか}心^{の中}で^{うめ}いて^います。

ですから、今日の^{きよう}本文^{ほんぶん}であるガラテヤ5:22で^い言^いわれる^{せいれい}聖霊^みの^{はつほ}実^はは、すなわち、**復活^{ふっかつ}の^{はつほ}初穂**とな^いった**イエス・キリスト**を^い言^いうこと^{あり}、その^{ひと}ひとり子^ごを^{とお}通^あして^{あらわ}表^{かみさま}れた^{あい}神^様の^あ愛^は、^{よろこ}喜^び、^{へいあん}平^安、^{かんよう}寛^容、^{しんせつ}親^切、^{ぜんい}善^意、^{せいじつ}誠^実、^{にゆうわ}柔^和、^{じせい}自^制によ^{すく}って^{れんごう}救^われた^{キリスト}と^{ふく}連^合さ^{れた}者^{もの}、^{ふくいん}つまり^も福^音を^{もの}持^つ者^{もの}の^いこと^をを^い言^いっている^のです。そこで4課の^かタイ^{トル}を「^{ふくいん}福^音を^も持^つ者^{もの}が^{せいれい}聖^霊の^み実^{しんちよう}」と^{しゆうせい}慎^重に^し修^正して^いま^す。

^{ひと}人^{かみさま}は^と神^様と^とも^にい^る時^{とき}こそ、^{せいいく}生^育、^{はんえい}繁^栄、^{じゆうまん}充^満で^きる^{そんざい}存^在で^あり（^{そう}創^{1:27-28}）、^{かみさま}神^様から^{はな}離^れて^は自^らど^んな^み実^もを^{むす}も^結ぶ^ことは^でき^ませ^ん。ヨハネ15:4-5を^よ読^みま^す。

4 わたしにとどまりなさい。わたしもあなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木にとどまっていなければ、自分では実を結ぶことができないのと同じように、あなたがたもわたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。

5 わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです。

イエス様は枝である私たちが実を結ぶことができるただ一つの道を教えてくださいました。それはぶどうの木であるイエス様にくっついていることです。人間のどんな熱心や努力でも結ぶことができる実はないということです。しかし、キリストの霊である聖霊が私たちの中に入って来られた事によって私と皆さんは実を結ぶことができる者となりました。神様が恵みで植えてくださった聖なる種、イエス・キリストによって、死んだ土であった私たちを通して、芽が出て、花が咲き、実が結ばれるようになったのです。

今回の4課の内容を理解するためには、かならず前の2、3課のみことばを黙想するよう
に願います。